

東京大学高齢社会総合研究機構 I O G

INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

私たちは膨大な時間の中で生き、それに比例して多くの経験や歴史を重ねていきます。

世紀を超えて歩んだ、特別な経験や知識を尊び、

私たちは、高齢者を一人の成熟した人格として捉え、研究を深めていきます。

(I O Gホームページから)

機構の紹介 機構長からの挨拶

(鎌田実機構長)

東京大学高齢社会総合研究機構は、「ジェロントロジー寄付研究部門※1」の3年間の活動を踏まえ、平成21年4月より、東京大学の恒常組織として、総長室総括委員会の下に設置されました。

現在、日本は平均寿命82歳の世界最長寿国です。2015年には人口の4人に1人が65歳以上となり、しかも80歳以上の後期高齢者が著しく増加するという、かつてどの国も経験しなかった超高齢社会を迎えます。人口高齢化の影響は医療・福祉領域にとどまらず、経済・産業・文化の広い領域で相互に関連する複雑な課題を提起しています。例えば、労働に従事しない依存人口比率の上昇や認知症・虚弱高齢者の介護など深刻な問題が顕在化している一方、高齢者を社会資源と捉え新しい雇用や産業の誕生に対する期待も高まっています。こうした課題を解決するためには個人の長寿化と社会の高齢化に応じた新たな価値観の創造と社会システムの抜本的見直しが必要で、科学の貢献が期待されています。

超高齢社会の広範で複雑な課題を解決するためには、医学、看護学、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学などを包括する新しい学問体系を築くことが必要です。そのような総合的学問体系であるジェロントロジーは、高齢社会の諸課題解決に先導的な役割を担う使命をもっています。

本機構では、高齢社会の諸課題に有効にかつ柔軟に取り組めるよう学際的なチームでプロジェクトが組めるようになっています。世界最長寿国であるがゆえに他の国々に先駆けて顕在化している高齢社会の重要課題に対して全学的な知を結集して取り組み、いまだ形成期にあるジェロントロジー学を推進すると共に、エビデンス・ベースの政策・施策提言を行っていくことを目指しています。

また、ジェロントロジーという俯瞰的視野から問題解決を志向する次世代研究者の養成を行うと同時に、大学外にも広く門戸を開き、他大学、民間の研究機関、企業、行政、地域で活動しておいでの方々と意見交換し共に活動したいと考えております。社会の高齢化はグローバルな現象であり、最長寿国である日本の取り組みに世界が注目しています。国内の課題に取り組むと共に、国際的にも積極的にネットワークを築いて、グローバルな研究・教育活動を展開していく所存です。皆さまのご支援、ご意見、ご提案、忌憚のないご批判をお願い申し上げます。

※1 平成18年4月に、総長室総括プロジェクト機構の活動の一つとして、日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社の3社からの寄附金により設置。平成21

年3月まで3年間活動を行った。

- ・組織図
- ・ロゴの紹介 機構の英語名 (Institute of Gerontology)の頭文字「IOG」
- ・パブリシティ
- ・メンバーリスト 機構専任教員・スタッフ
- ・アクセス・問い合わせ
- ・書籍

書名：『2030年 超高齢未来』

著者：東京大学高齢社会総合研究機構

出版社：東洋経済新報社

定価：1,575円(1,500円＋税)

発売日：2010年11月25日

判型：四六判 並製／216頁

ISBN：978-4-492-22311-6

目次

- 第1章 迫りくる超高齢社会の衝撃
- 第2章 「幸せな超高齢社会」というパラダイムシフトへ
- 第3章 超高齢社会への東京大学の挑戦1
知と力を結集して、豊かな「長寿社会」を拓こう
- 第4章 超高齢社会への東京大学の挑戦2
「健康なまま長生きできる社会」をつくろう
- 第5章 超高齢社会への東京大学の挑戦3
「いきいきした街」をつくろう
- 第6章 超高齢社会への東京大学の挑戦4
「頼りになる仕組み」をつくろう
- 第7章 超高齢社会を逆手にとる「新」成長戦略
- 第8章 「超高齢未来」へのメッセージ
ビジョンの共有に向けて

研究活動

■研究活動紹介

高齢社会総合研究機構では、研究プロジェクトの共通テーマとして、「Aging in Place：住み慣れた地域で、自分らしく老いることのできる地域づくり」を掲げています。このテーマのもと、学際的な研究チームを構成し、基礎研究の知見と技術の革新を生かし、実際の地域社会をフィールドに、1. 課題の特定化、2. 課題解決研究プロジェクトの立ち上げ、3. 社会における実践、をすすめる、「社会実験型・課題解決型」の研究プロジェクトを中心に進めています。

- ・柏市豊四季台地域 高齢社会研究会（別掲）
- ・人と人、人と社会のつながり創生のための生涯学習プロジェクト「柏くるる」
- ・後期高齢者のQOLとコミュニティの質
- ・食の心理社会的機能に関する研究
- ・各種実施事業

教育活動

■学部横断型教育プログラム「ジェロントロジー」

ジェロントロジー（2008年度～）【学内向け】

※東京大学に在学中の3～4年生向け教育プログラムです。

【授業概要】

「ジェロントロジー」とは、高齢者や高齢社会の諸問題を解決するために生まれた学際的学問です。医学、看護学、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学などの幅広い領域を包含します。2015年には4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎える日本では、専門分化した学問だけでは対応が難しい複雑な問題が生じてきています。ジェロントロジーを学ぶことは、将来どの専門領域に進む上でも非常に有用です。

総長室直轄の総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門では、ジェロントロジーに関する学際的教育基盤構築の一環として、2008年度より学際横断型教育プログラム「ジェロントロジー」を国内で初めて設置し、高齢者や高齢社会の諸問題に関する学際的な知識を有する学生の育成を開始します。あらゆる分野を目指す学生の参加を歓迎します。

講演ビデオ

- ・コア科目1 加齢にともなう心身機能・生活の変化と適応

- ◇[第1回「知の構造化とジェロントロジー」](#)「イントロダクション」
- ◇第2回「老化の理論」（近日公開予定）
- ◇[第3回「生涯発達の理論」](#)
- ◇[第4回「エイジングの研究方法」](#)
- ◇第5回「身体機能の変化と適応」（非公開）
- ◇[第6回「疾病・生涯とヘルスプロモーション」](#)
- ◇[第7回「身体機能を補う福祉工学機器」](#)
- ◇[第8回「知的機能の変化と適応」](#)
- ◇[第9回「社会関係の変化と適応」](#)
- ◇[第10回「前期高齢期（Third Age）の課題」](#)
- ◇[第11回「団塊世代のエイジング」](#)
- ◇[第12回「後期高齢期（Fourth Age）の課題」](#)
- ◇[第13回「死をめぐる諸問題」](#)

- ・コア科目2 高齢社会の社会システム

- ◇[第1回「イントロダクション」](#)
- ◇[第2回「人口学・人口統計」](#)

- ◇[第3回「雇用政策」](#)
- ◇[第4回「年金・税制」](#)
- ◇[第5回「介護・福祉」](#)
- ◇[第6回「地域福祉」](#)
- ◇[第7回「保健・医療」](#)
- ◇[第8回「住宅政策・街づくり」](#)
- ◇[第9回「高齢者関連法」](#)
- ◇[第10回「家族介護・施設介護の臨床」](#)
- ◇[第11回「居住環境・移動手段」](#)
- ◇第12回「福祉機器の開発と利用」(近日公開予定)
- ◇第13回「高齢者関連サービスの見学及び担当者へのヒアリング」(近日公開予定)・
- ・[2012年度学部横断型教育プログラム](#)
- ～
- ・[2008年度学部横断型教育プログラム](#)

イベント

■各種実施イベントリスト

- ・これから開催されるイベント
- ・過去のイベント

2012年度

- ・[12/15 高齢社会総合研究機構 \(IOG\) 活動報告会](#)
- ・[11/15 シニアが拓くこれからの日本ー新しい退職後の生き方にチャレンジ！ー \(ダイヤ財団\)](#)
- ・[10/9 日独シンポジウム「ポジティブ・エイジング」](#)
- ・[9/21 食と生命のサイエンス・フォーラム～筋肉の衰えと加齢ー栄養と運動による予防～](#)
- ・[3/28 シンポジウム「超高齢社会に耐えうる震災復興まちづくり」](#)
- ・[10/21～22 東京大学柏キャンパス一般公開 \(11 番に IOG 記載\)](#)

IOGも出展します。講演会、健康チェックコーナー、福祉機器や模擬住居の体験等、誰もが楽しめる企画を用意してお待ちしています。

- ・[転倒予防・認知症予防講座 ※参加者募集中\(PDF\)](#)
- ・[鎌田機構長の特別講演会](#)
- ・[9/4 福井県あわら市「第1回在宅ケアを考える住民集会」](#)
- ・[福井県坂井市「第1回在宅ケアを考える住民集会」](#)
- ・[6/28「柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会」中間報告記者発表](#)
- ・[「柏キャンパス新棟 \(第2総合研究棟\) お披露目」](#)
- ・[5/26「東京大学ジェロントロジーコンソーシアム」09-10年度活動報告会](#)

2010年度

- ・[11/16「千葉県在宅医療推進寄附プロジェクト」設立記念講演会](#)
- ・[9/17「社会が求めるこれからのデザイン・エンジニアリング」\(外部リンク\)](#)

- ・ [7/24 ジェロントロジーセミナー「認知症と運転」\(外部リンク\)](#)

2009年度

- ・ [シンポジウム「高齢者の健やかな生活を実現するために」](#)
- ・ [シンポジウム「長寿社会のまちづくり\(3\)いくつになっても楽しく働く・遊ぶ！」](#)
- ・ [ソウル国立大学・東大・APRU 共同開催 ジェロントロジー会議](#)
- ・ [日本・スウェーデン国際会議「ジェロントロジー」](#)
- ・ [シンポジウム『長寿社会のまちづくり\(2\)ー豊四季台地域の未来を考えるー』](#)
- ・ [シンポジウム『長寿社会のまちづくり\(1\)ー柏ー東大モデルの提案ー』](#)
- ・ [東京大学高齢社会総合研究機構 機構設立記念講演会](#)

社会連携

■産学コンソーシアム「ジェロントロジー」

[産学連携本部](#)

20世紀後半に平均寿命の30年延長という驚異的な寿命革命を達成して世界最長寿国となった日本は、今後20年で75歳以上の「後期高齢者」の倍増(1000万人増)という急速な高齢化に世界に先駆けて直面します。人口が若い世代の多いピラミッド型の時代につくられた現在の社会システムや生活環境はそうした超高齢社会のニーズには対応できません。新たなニーズは新たな産業を創出します。長寿社会の生活とニーズの正確で複眼的な理解に基づいて課題を割り出し、安心して活力ある長寿社会の実現に向けた学際科学の確立と具体的な産学官連携活動を企画しイノベーションの創出を目指すコンソーシアムを設立しています。参加されている企業の業界は多岐に渡り、活発な議論を行っています。

計画(2009年4月1日~2011年3月31日)

1年目/全員参加のワークショップでジェロントロジーの広い分野を概観。

[2010年3月17日開催 報告会資料\(ZIP\)](#)

2年目/参加者をいくつかの領域(ワーキンググループ、WG)に分け、領域別に先端知識、技術、ニーズの探求。想定されるWGとして「住宅と街」、「健康と栄養」、「高齢者の安心・安全」、「モビリティ」、「看護・介護」、「医療保険」等があります。その他産業界のご提案を受けます。

[2011年5月26日開催 報告会資料\(ZIP\)](#)

(上記資料には、当日プログラム、サマリー、各ロードマップが含まれます。)

[報告書【別冊Ⅰ】超高齢未来の社会保障](#)

[報告書【別冊Ⅱ】超高齢未来のシナリオ](#)

3年目/共同研究創出

■産学ネットワーク

[産学連携本部](#)

日本の高齢化は急速に進展し、2030年には高齢化率が32%、75歳以上の後期高齢者が人口の1/5を占めるという世界のどこでも経験したことのないような超高齢社会を迎えます。人口が若い世代の多いピラミッド型の時代に作られた現在の社会システムや生活環境はそうした超高齢社会のニーズには対応できません。新たなニーズは新たな産業を創出します。長寿社会の生活とニーズの正確で複眼的な理解に基づいて課題を割り出し、安心して活力のある長寿社会を目指していきたいと考えております。そこで東京大学では産学連携のジェロントロジーコンソーシアムを2009年度に設立し、2年間の活動でロードマップ作成等を行ってきました。このコンソーシアムの活動を引き継ぐものとして、2011年度から産学ネットワークを設立いたします。賛同される法人の方が本ネットワークに参加することをお誘いいたします。

東京大学 松本洋一郎 理事・副学長

影山和郎 産学連携本部長

鎌田 実 高齢社会総合研究機構長

「ジェロントロジーネットワーク規約」

計画

2011年度より3年程度の活動を第一期として実施する。

全体会（情報共有のための話題提供と議論、交流会）を年3回、合宿（1泊2日で特定テーマの議論等で親睦を深める）を1回。

任意に設定の分科会（テーマを定めてWGとして活動）を必要に応じて随時開催。

メンバーの特典

- (1) 上記全体会・合宿・分科会に参加できる。法人所属のメンバーは同一法人から最大5名参加できる。
- (2) 産学連携に係わる諸提案ができる。
- (3) グループウェア上で随時情報交換等ができる。

参加料・募集企業数など

◎法人メンバー参加料： 30万円／年

◎募集企業数 20社程度

○申し込み期限 5月末を一旦の締切にさせていただきますが、申し込みは随時受け付けております。

○活動内容についての問い合わせ先

東京大学高齢社会総合研究機構 ジェロントロジーネットワーク担当

電話 04-7136-6684 もしくは 6676、email : g-net@iog.u-tokyo.ac.jp

○申し込み先

東京大学産学連携本部産学連携研究推進部

東京大学産学ネットワーク「ジェロントロジー」登録事務担当：（植村）

Email : geronet@ducr.u-tokyo.ac.jp

ジェロントロジーネットワークの紹介

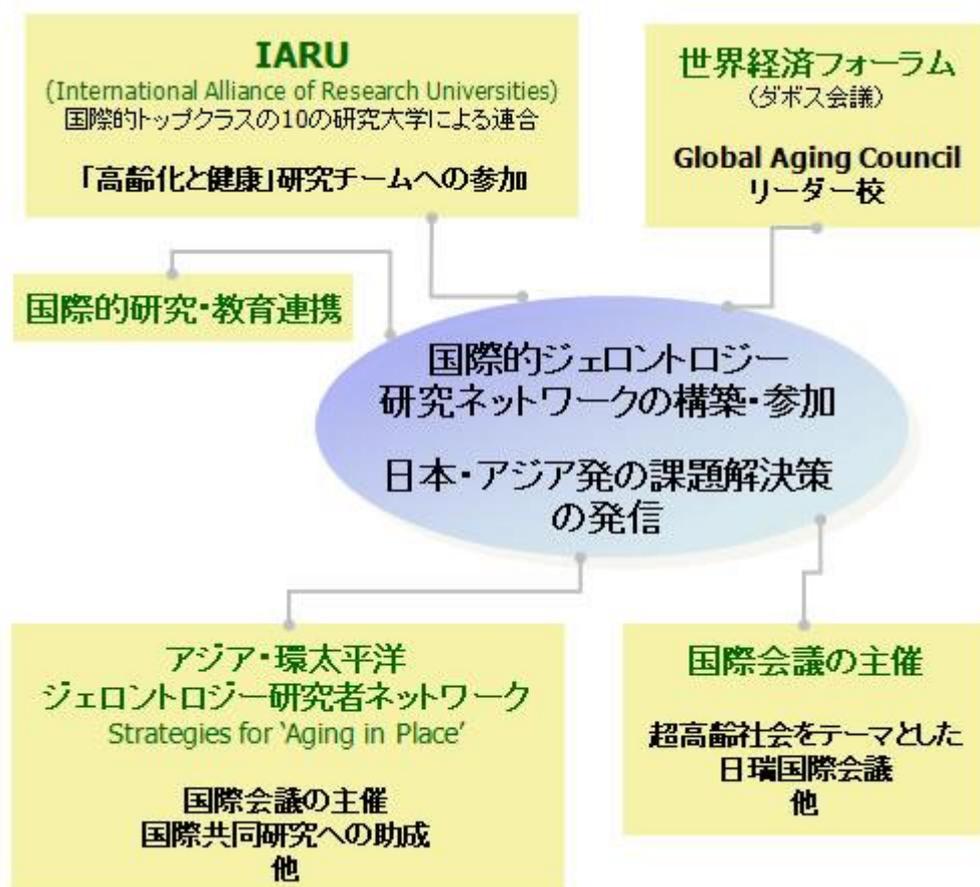
参加申込書

※申し込みは郵送のみ受け付けております。

国際連携

■国際連携活動の紹介

「Global Aging」と呼ばれるように、人口高齢化は世界で進行している現象のひとつです。特にアジアの高齢化は急速かつ大規模で、その社会にもたらすインパクトははかり知れません。高齢社会総合研究機構では、東京大学が参加する大学連合、世界経済フォーラムのメンバーとして世界の高齢化問題を積極的にリードするとともに、積極的に人材交流と知的交流をはかり、国際会議やワークショップを主催、企画し、日本・アジア発の課題解決策を世界に発信していきます。



コミュニティ

こちらは機構の研究プロジェクト関連メンバー向けのページです。

リンク

■リンク

□学内サイト

- ・ [東京大学](#)
- ・ [東京大学産学ネットワーク「ジェロントロジー」](#)

□寄附企業

- ・ [ニッセイ基礎研究所](#)
- ・ [セコム株式会社](#)
- ・ [大和ハウス工業株式会社](#)

□学外サイト

- ・ [柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会](#)
- ・ [RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」](#)

長寿社会のまちづくり

・ 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会

<http://kashiwa-toyoshikidai.org/>

柏市・東京大学高齢社会総合研究機構・都市再生機構（UR都市機構）

・ 豊四季台地域高齢社会総合研究会

「柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会」は、柏市において、今後日本の各都市で進行する急激な都市高齢化に対応した、誰もが安心して元気にくらすことができるまちづくりのあり方を検討し、その具現化を推進する研究会です。構成員は柏市、東京大学高齢社会総合研究機構（以下、東大I O G）、及び独立行政法人都市再生機構（以下、UR都市機構）の3者です。

2009年6月に立ち上げ、定期的な研究会の開催、及び市民向けシンポジウム等を開催してきました。1年後の2010年5月には具体的な施策を進めるため、柏市、東大I O G、UR都市機構は三者協定を結びました。

柏市の中でも突出して高齢化の進むUR都市機構豊四季台団地及びその周辺地域（豊四季台地域）を中心に活動しています。

現在は、研究会のもとに「在宅医療委員会」「人と人委員会」「住まい・移動委員会」の3委員会および各ワーキンググループを設け、超高齢社会・長寿社会に対応したまちづくりの具体化をすすめています。

・「長寿社会のまちづくり」構想

柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会では、2009年からの研究会での議論を「長寿社会のまちづくり構想」にまとめました。

構想要約

背景と課題

- ・これからの日本は、都市部において急激に高齢化が進みます。柏市も例外ではありません。
- ・団塊世代が65歳以上に達するため、今後5年ほどは現役から退きセカンドライフの活躍の場を地域に求める人々の増加が見込まれます。
- ・また2020年を超えると、特に75歳以上高齢者の割合が高まることが予測されます。
- ・現状のままでは、高齢人口の増加は要支援・要介護者の増加に結びつくことが懸念されます。
- ・支援や介護を必要とする高齢者を減らすための取り組みをすすめるとともに、支援や介護、医療が必要でも住み慣れた環境で自分らしい生活を営めるシステムづくり、まちづくりが必要です。

研究会が目指すまちの姿

- ・超高齢・長寿社会に対応したまちづくりの観点から、以下の方針を実現します。
 - (1) いつまでも在宅で安心した生活が送れるまち
 - (2) いつまでも元気で活躍できるまち

そして、(1)(2)を実現するために以下2点に取り組みます。

- ・地域包括ケアシステムの具現化
- ・高齢者の生きがい就労の創成

資料のダウンロード

- ・「長寿社会のまちづくり」(平成23年6月28日版) [概要版](#) [全体版](#)
http://kashiwa-toyoshikidai.org/uploading/110628_kashiwa-toyoshiki.pdf

目次

1. プロジェクトの意義
2. 背景と課題
3. 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会について
4. 研究会がめざすまちの姿
5. 地域包括ケアシステムの具現化について
6. 高齢者の生きがい就労について
7. 生まれ変わる柏市・豊四季台地域の暮らし
8. 豊四季台地域における事業のスケジュール

・活動内容

柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会

研究会の活動全般の方向性を決め、意思決定をする場です。

これまで約1~2か月に1回のペースで研究会を開催し、全体の活動に関わる議論、意思決定、各委員会の活動の進捗確認を行っています。また、研究会主催のシンポジウムや本ウェブサイトの運営を通して研究会の活動を紹介しています。

委員は柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構の、本プロジェクトに関わるメンバから構成されています。

在宅医療委員会

豊四季台地域、あるいは柏市全域における「地域包括ケアシステム」の具現化を目指し、在宅医療・ケアの推進に関する議論を行っています。現在は、医療ワーキング・グループ、連携ワーキング・グループを中心に、在宅医療に係る負担軽減システム、地域医療拠点の整備等の具体的検討を進めています。

医療ワーキング・グループ

総合研究会のメンバーである柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構のほか、柏医師会、千葉大学をメンバーに加え、豊四季台地域、あるいは柏市全域における在宅医療の推進について、概ね1?2ヶ月に1回の頻度で議論を行っています。

連携ワーキング・グループ

医療ワーキング・グループのメンバーに加え、柏歯科医師会、柏市薬剤師会、訪問看護ステーション、柏市介護サービス事業者協議会、柏市介護支援専門員協議会、地元自治会をメンバーに加え、在宅医療を含む在宅ケアの推進やそれを支える多職種連携のあり方について概ね1?2ヶ月に1回の頻度で議論を行っています。このワーキング・グループ自体が、職種・立場を超えた連携や交流の場としても活用されています。

人と人のつながり委員会

「いつまでも元気で活躍できるまち」の実現を目指し、住民同士が繋がり、支えあうことを支援する社会の在り方を検討します。

現在は「就労ワーキング・グループ」として活動し、身近な地域で無理なく働き、かつ地域の課題解決に貢献できる「生きがい就労」の場をまちに創造することを目指しています。就業の場は「農業」「生活支援」「子育て支援」「食」の4領域、8事業です。

就労ワーキング・グループ

「農業」「生活支援」「子育て支援」「食」の4つのワーキング・グループから構成されます。これら4分野は、高齢者の力や知恵を活かして、現在柏市が抱えている課題を解決できるのではないかと考えた領域です。ワーキング・グループでは、総合研究会のメンバーである柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構に加え、それぞれの分野の専門家や関連組織が参加して、高齢者の能力と地域の課題をうまくマッチングする仕組みを考え、地元の企業や組織と一緒にあって高齢者が生きがいとして働ける場をつくっています。

住まいと移動委員会

在宅医療委員会や人と人のつながり委員会における各WGで議論されている事業やプロジェクトを実施するための空間に関する事項を検討の対象としている場です。

各WGにおける議論を詰めて、空間に関する諸条件を抽出する必要があると、立ち上がりは遅かったのですが、2010年10月からWGを、そして豊四季台地域で活動される地元の方と協働しながら、住民向けのイベントを開催しています。

- ・イベント・募集
- ・パブリシティ
- ・問い合わせ

高齢社会検定試験

高齢社会検定試験準備委員会

超高齢・長寿社会を学際的に研究する学問「ジェロントロジー」の知見を基礎としつつ、これから訪れる社会のさまざまな課題や解決策等をより包括的かつ体系的にまとめた教材を、東京大学高齢社会総合研究機構の編著により提供（2013年2月発刊予定）し、その内容をテキストにビジネスマンや行政マンまた医療・福祉に携わる専門職の方々および学生から高齢者まで一般の方々までを対象に検定試験を実施（6月予定）。だれもが検定から得られる知識をこれからの社会でしごとを進めていく上で、また個人の人生設計を通じて活用して、「安心して活力ある超高齢・長寿社会」の創造に寄与できるような社会教育・啓発事業として取り組む。

「高齢社会検定試験用テキスト」

東京大学高齢社会総合研究機構 編著

2013年2月発刊予定。

- ・東京大学を中心にジェロントロジー研究に精通した研究者による執筆。
- 「個人の長寿化」と「社会の高齢化」に伴う諸課題を、保健・医療、介護・福祉、住宅・街づくり・移動、就労・社会参加、日常生活、社会保障、消費市場、産業・技術といった立場から包括的かつ体系的にまとめる。

高齢社会検定試験

2013年6月実施予定

- ・個人の長寿化、社会の高齢化に伴う課題を解決し、より豊かな未来を築くために必要な知識を提供する検定。
- ・総論・個人編・社会編の3つから構成。

共通 総論

超高齢・長寿社会を俯瞰的に総合的に理解するための基礎知識を提供

カテゴリーⅠ 個人編

将来不安が蔓延する世の中。高齢期の生活がわからないから不安も募りがち。より豊かな長寿を実現するために必要な知識を提供。

- ・個人の人生設計（老後生活設計）の場面で役立つ。
- ・個人相手のマーケティングやサービスの企画に役立つ。

カテゴリーⅡ 社会編

人口の3人に1人が65歳以上となる本格的な超高齢社会を前に、新たな社会・市場づくりが求められますが、その方策が見出せていない。高齢化課題を解決し日本の発展を考えていく上で必要な知識を提供。

- 超高齢社会における商品・サービス開発の場面で役立つ。
- まちづくり、制度・施策構築の場面で役立つ。

<本検定およびテキストに関する問い合わせ先>

担当・平江 hirae@iog.u-tokyo.ac.jp 03-5841-1662